

囉骨沒密施合毘伽禮可汗(即ち崇德可汗の次の可汗)」と記し、其の前代の可汗即ち崇德可汗が、少くとも此の時以前に死したるものなることを記せども據るべからず(二五三)、此の二年五月と曰ふは、次に述ぶべき昭禮可汗を冊したる寶曆元年(八二五年)五月を誤りたるものに外ならざるべし、されば此の可汗の死は長慶三年か四年かの何れかに置くべきものなるが、此の可汗に繼ぎし昭禮可汗を唐より冊したるは、冊府元龜封冊篇に敬宗の寶曆元年(長慶四年の翌年)五月と見ゆるより考ふれば、崇德可汗の死は長慶四年(八二四年)と見、新唐書の記事を以て正しとすべきが如し、何となれば、新可汗の立てる時、唐より之を封冊するに當り、特別の事情の存せざる限り、其の翌々年に於て冊命の使を送るが如きは、決して認む可らざる事例に屬するを以てなり。

かくて長慶四年崇德可汗死するや、新唐書回鶻傳に據れば其の弟、唐會要及び冊府元龜繼襲篇によれば其の從父弟なる曷薩特勤位を嗣ぎ、唐は翌寶曆元年(八二五年)之を冊して昭禮可汗と爲せり、昭禮可汗が太和六年(八三二年)其の下の爲に殺され、從子胡特勤嗣ぎ立ちしことは、新唐書回鶻傳・唐會要・冊府元龜等の悉く一致する所なり、然るに獨り舊唐書は其の廻紇傳に於て、太和七年三月、廻紇李義節等、將駝馬到、且報可汗(禮可汗即昭禮可汗)三月二十七日薨、已冊親弟薩特勒、廢朝三日云々」と記し、又其の本紀に於て、太和七年「夏四月戊午朔辛酉九姓廻紇可汗卒」(二五四)と記せり、斯く廻紇傳には太和七年三月に李義節等が三月二十七日可汗の薨じたることを報じたりと曰へるなれば、其の三月二十七日は前年即ち太和六年の三月二十七日ならざる可らずと思はるゝに、本紀には反りて太和七年四月九姓廻紇可汗卒と見ゆ、かゝる矛盾は思ふに本紀が昭禮可汗に繼ぎて立ちし胡特勤を唐より冊したる時、即ち太和七年四月(二五五)を以て、昭禮可汗の死したる時と誤りたるものに外ならざるべし。又廻紇傳にはこゝに掲げ